

## 大学評価学会「第45回研究会」の報告

2014年11月15日(土)13:30～、早稲田大学(早稲田キャンパス)3号館710教室を会場に、第45回研究会が開催された。大テーマ「論考・著作をもとにさらに語ろう」の下に、3名の会員が報告し、全体で意見交換した(なお、当日資料のタイトルは以下のとおりであり、予告の仮タイトルとは異なる場合もある/参加者17名)。

話題提供：①碓井 敏正氏(京都橘大学[名誉教授]/大学評価学会顧問)

「教育運動の活性化を考える——対抗軸とその前提を考える」

関連資料：『非正規雇用教職員並びに非常勤講師の雇用・労働実態調査アンケートについて』(2014.10.4.)

②梅原 利夫氏(和光大学/前副学長)

「大学の経営と教育——大学評価の観点から」

関連資料：梅原「大学の経営と教育—その苦悩と希望」『教育』2014年4月号[小特集 若者支援の場=大衆化大学の苦悩]

③岡山 茂氏(早稲田大学)

「新著『ハムレットの大学』を語る」

(文献：岡山『ハムレットの大学』新評論2014)

なお、研究会終了後の懇親会で出された日本の私立学校の組織に係る研究としては、蔵原清人(1997)「戦前期私立学校法制の研究——私立学校の設立・組織を中心に」『工学院大学共通課程研究論叢』35(1)、pp.139-153があるそうです。